



隔週金曜日発行

東大阪市議

中西のぶひろの 週刊なのタイムス

～東大阪の市政や地域情報をお伝えする～

第54号令和5年3月31日発行

発 行：東大阪市議会議員 中西のぶひろ

住 所：東大阪市瓢箪山町2-14

連絡先：(TEL)072-982-5127 (FAX)072-985-6972

携 帯：090-8164-5857

メール：nakanishi.jimusho@gmail.com

ホームページ：<https://www.nanotimes.net/>

■連続テレビ小説「舞いあがれ！」終わる

NHK朝の連続テレビ小説の107作目として放映された「舞いあがれ！」は、昨年10月3日にスタートし3月31日に多くの感動を視聴者に与えて終了しました。スタートから楽しみにして見ていた私は、日に数回見るだけでなく録画したものを見返してはその都度涙していました。このドラマから、どれだけ多くの元気をもらったことでしょうか。

★舞いあがれ！感謝祭

放送終了した3月31日には東大阪文化創造館で「舞いあがれ！感謝祭」が行われ、この模様はインターネットでも同時配信され、多くの人がまた感動を新たにしました。私もこれを楽しみにしており、主演の福原遥さん（岩倉舞役／結婚後は梅津舞）、赤楚衛二さん（梅津貴司役）、高橋克典さん（岩津浩太役）、脚本家の桑原亮子さん、歌人の俵万智さんが出演され、ドラマの裏話、作者の思いなど普段聞けない話がおもしろく、またこの対談で桑原氏が中学生になるころから原因不明の中途失聴による重度の聴覚障害をお持ちであることがわかり、強い挫折感を持つ人生の中で絶余曲折の末に、自分の生きる道を脚本を書くことに見つけ、自分の夢を実現させていくことに大きな感動を覚えました。深みのある脚本はそんな経験にもあるのでしょうか。余計にファンになりました。なお、「舞いあがれ！感謝祭」を見逃した人は、下記でアーカイブス（見逃し）配信しています。<https://www.nhk.jp/p/maiagare/ts/J1R4N994JM/movie/>

図①舞いあがれ！感謝祭のQRコード



★脚本のすばらしさ

このドラマが成功した大きな要因の一つに脚本が素晴らしいことがありました。舞ちゃんの強い空へのあこがれが、大学で航空工学を学ぶ中で人力飛行機スワン号＜②＞と運命的な出会いをして、それを操縦する機会を得て空を飛ぶ魅力に取り付かれ、航空機のパイロットとして空を飛ぶ夢になり、大学を中退して航空学校に入學し苦労の末にパイロットの資格を得てパイロットになる、というストーリー展開の中で恋愛や家族問題、介護などの社会問題を織り込んでいくのだろうということを考えていました。少なくとも途中までは・・・ところがどっこい、リーマンショックの経済情勢で採用が延期になり実家のねじ工場を手伝う中で、父・浩太の死と遭遇し絶余曲折があって、パイロットをあきらめ母・めぐみと一緒に工場を再建するというストーリーを誰が予測したでしょうか。その後は、東大阪のモノづくりを主題にしながら、新会社の設立があり、大学時代の人力飛行機のサークル「なにわバードマン」で仲間だった刈谷氏が開発する電動垂直離着陸機「空飛ぶクルマかささぎ」＜③＞と出会ってその開発に関わり、最後は2027年の近未来に「空飛ぶクルマ」の完成にこぎつけ、舞ちゃん自身が操縦するというストーリーで、最初の空へのあこがれや夢が最後にかない、ストーリーが大団円で完結しました。予期しない展開に、ワクワク、ドキドキしながら毎日楽しみにテレビの前に座っていたのは、私だけではなかったと思います。桑原亮子さんが全体の構想をつくり、他二人の脚本家が参加してつくられたというが、まさしく脚本の勝利ではなかつたでしょうか。



図②人力飛行機スワン号



図③空飛ぶクルマかささぎ

図②③は、「舞い上がり！」より。

★舞いあがれ！とモノづくり

「東大阪のモノづくり」が半年間にわたって毎日全国のお茶の間に届けられ、東大阪のモノづくりに携わる「いいモノをつくりたいという熱量」の大きな人たちには自信になりました。東大阪のモノづくりの特徴は、ひとつに中小零細の町工場が約6千集積しネットワークを形成して、製品を受注した企業がつながりのある企業と協力してモノづくりを行うところにあり、何でも作れるところにあります。まさしく舞ちゃんが新しくつくった、工場と工場をつなげ新しい価値を創り出そうとする「こんねくと」という会社は、それを体現するものでした。また特徴の第二には、技術力が確かなことがあります。今回のドラマでも確かな技術力でネジ考証や時代考証、技術指導にあたり、ドラマが臨場感溢れるリアルなものになりました。また考証や指導をした人たちが私たちの周辺の身近な人でしたので、そのこともわたしたちがこのドラマに大きな親近感を覚えた理由にもなっています。感謝祭でも紹介された人たちの中で知り合いがいると、こちらまでうれしくなりました。

★大阪・関西万博と空飛ぶクルマ

2025年大阪・関西万博の大きな目玉のひとつが「空飛ぶクルマ」であり、2年後の実用化に向けてテストフライトが行われています<④>。また昨年11月5日・6日の2日間、花園中央公園で行われたHANAZONO EXPO（東大阪市主催）は、大阪関西万博の機運を盛り上げるイベントで2日間で7万人の来場者がありたいへんにぎわいましたが、その時にも「空飛ぶクルマ」が展示され、来場者の注目を浴びていました<⑤>。「舞いあがれ！」の「空飛ぶクルマかささぎ」も、ドラマの中では東大阪で生まれた「アビキル」という会社が、舞ちゃんのつくった「こんねくと」との提携でつくられたものであり、2027年に五島列島の島と島を結ぶという設定でしたが、明らかに大阪・関西万博につながるものであり、東大阪のモノづくりにとっても追い風になることは間違ひありません。

ガンバロウ東大阪！

★「舞いあがれ！」は終わったけれど、「舞いあがれ東大阪」はこれからがスタート！



図⑥ NHK番組ロゴ



図⑦ 地域キャンペーンロゴ

40号でもお知らせしましたが、市の観光部署では、NHK番組ロゴ<⑥>とは別に地域キャンペーンロゴ<⑦>をつくりました。当初これをつくるには、NHKが難色を示したことでしたが、観光部署の職員の粘り強い交渉で出来たものと聞いています。番組終了後はNHK番組ロゴをNHKの承諾なしに使用することはできませんが、地域キャンペーンロゴは今後も自由に使えるということであり、東大阪のモノづくりや観光にとっては、ひじょうに大きなプラスです。このことは、職員の隠れたファインプレーであったといえるでしょう。東大阪市にとっては番組が終了したこれからが勝負の時であり、「舞いあがれ東大阪」はこれからがスタートの時です。モノづくりや観光にとって、これから東大阪市の長い歴史の中で大きな転換点になりえるドラマであっただろうと思います。「舞いあがれ東大阪」

